

生涯教育研修活動報告書

一般検査研究班

- 1 実施日時：2023年9月11日 19時00分～20時00分
- 2 会場：Web開催 教科・点数：専門教科－20点
- 3 主題：尿沈渣を極める②～上皮細胞編～
- 4 講師：玉井 章弘（アークレイマーケティング株式会社）
- 5 協賛：なし
- 6 参加人数：会員 262名 賛助会員 0名 非会員 0名
- 7 出席した研究班班員：藤村和夫 室谷明子 柿沼智史 中川禎己 松本実華
小針奈穂美 織田喜子 渡邊裕樹

8 研修内容の概要・感想など

今回の一般検査研究班研修会は、「尿沈渣を極める」シリーズ② 上皮細胞編として玉井氏を講師に Web にて開催した。

玉井氏より尿沈渣検査における上皮細胞と円柱の鑑別について、細胞形態の特徴や出現要因、ステルンハイマー染色（以下 S 染色）による染色性の違いについて解説があった。上皮細胞は、扁平上皮細胞、尿路上皮細胞、尿細管上皮細胞に大きく分類され、尿沈渣検査では無染色や S 染色の染色性の違いによって細胞の鑑別が行われている。S 染色は銅を含むフタロシアン系の塩基性色素であるアルシアン青が細胞の核や硝子円柱、粘液糸等を青色に染色し、キサントリン系の塩基性色素であるピロニン B が細胞質や顆粒円柱の顆粒成分を赤紫色に染色する。

尿細管上皮細胞は、角柱・角錐型、鋸歯型、アメーバ偽足型、オタマジヤクシ・ヘビ型などの多彩な出現様式を伴う上皮細胞として知られている。最新のトピックスとして尿細管上皮細胞に丸細胞という分類が報告されており、丸細胞の検出は慢性腎不全患者における腎機能の予後診断の新しいマーカーとして示唆されている。

円柱の判別基準は JCCLS GP1-GP4 に記載されている基準によって分類されている。硝子円柱の検出は、S 染色の方が無染色に比較して硝子円柱に含まれる類円形や粘液子の鑑別や円柱の見逃しが少ないため、S 染色での観察が推奨されている。S 染色に含まれる金属イオンと硝子円柱成分により混濁が生じてしまい円柱の検出率が低下してしまう報告があるが、S

染色に EDTA を 1 % まで添加することで、硝子円柱の染色性を改善でき検出率の向上につながると紹介があった。

尿沈渣検査における上皮細胞の鑑別は、臨床症状や病態を反映した出現や正常上皮細胞と悪性上皮細胞の鑑別において重要である。尿沈渣検査の経験が浅い技師から熟練した技師においても再確認し業務に役立つ内容であった。

提出日：2023 年 10 月 14 日

文責：渡邊裕樹